

■ 上毛新聞に掲載されました！

二 毛 新 報

(第三種郵便物承認)



# 野生種のエノキタケ

## ジンスノーマが露地栽培

### 前橋のスーパーで販売

眼鏡チェーン店「JINS」を展開するジンスの特例子会社で、農業を手掛けるジンスノーマ（前橋市川原町、田中仁社長）が、野生種のエノキタケの生産に乗り出した。県林業試験場が協力し、全国的にも珍しい露地栽培に取り組んでいる。自社での作物栽培は初めてで、今月から市内のスーパーで販売。雇用する障害者の働きがいにつながっている。

野生種のエノキタケを作ってもらい、これらは一般的に流通しているものと比べ、かさ（軸）が太く、軸が太いのが大きく、軸が太いのが特徴。かさや軸部分などは全体的に茶色い。ぬめりが強く、香りも豊かで、みそ汁や鍋物の具に使うと特有のぬめりと深い味わいが楽しめる。バスタの具材にもお薦めという。ジンスノーマは試験場が野生種の中から選抜した県産の種菌を活用。外部の農家に菌床

今月から本格的な収穫を開始。キノコはパック詰めして、その日のうちにフレッシュイクラシード若宮（前橋市若宮町）に卸す。「えのきはたけ」（100



自社生産のエノキタケをPRするジンスノーマの社員ら（上）と露地栽培したエノキタケ

画を立て、収量アップを目指す。他品目の生産も検討していくという。ジンスノーマは2015年5月設立。農産物の販売のファームドゥのグループ会社、農業生産法人ファームクラ（高崎市）から農業の委託を受け、葉物野菜やダイコン、ニンジンなどの収穫や袋詰めをしている。自社で一から手掛けた作物の生産は初めてとなる。

↑ 2017年12月23日(土) 上毛新聞に掲載